

# 名家連ニュース

令和6年2月27日(火)  
発行：特定非営利活動法人  
名古屋市精神障害者家族会連合会  
会長 池山 豊子  
TEL/FAX(052)846-5576 NO.964号

## ◆◆ 精神疾患の基礎知識講座「家族に届ける」第4回 ◆◆

精神疾患の基礎知識講座の第4回が、2月18日(日)10時から12時、コープあいち生活文化会館(本山生協会館)4階会議室で開催され、40名が参加しました。国立精神・神経医療研究センター(以下 NCNP)所沢市アウトリーチ支援チームの西内絵里沙さんが「治療や支援につながっている家族の課題～地域精神保健の現場から感じること～」という題でリモートで講演をされました。長江美代子さん(一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター副会長)がファシリテーターとして全体の進行役を務められました。



所沢市精神障害者アウトリーチ支援事業：埼玉県所沢市(人口約34万人)では、2013年『精神障害者への地域生活支援の充実に向けて(提言書)』が市長に提出され、2015年から「所沢市精神障害者アウトリーチ支援事業」が開始された。所沢市保健センター健康管理課こころの健康支援室が委託する事業で、2015年～2018年は民間企業が受託。2018年以降は、NCNP(東京都小平市)が受託。所沢市アウトリーチ支援チームは家族支援にも積極的に取り組んでおり、その中ではメリデン版訪問家族支援の手法を活用することもある。チームは常勤4名、非常勤5名からなり、西内さんはサブ・リーダーを務めている。こころの健康支援室(PSW7名)が相談を受付けて、その中から要件(表参照)を満たすものを本チームに引き継いでいる。年間90ケース(継続を含む)を本チームが対応している。

対象基準 ABCは必須項目でかつa-gのいずれかに該当する場合  
A)所沢市民 B)精神疾患がある/疑われる人(ハイリスク者)  
C)既存の精神医療保健福祉の支援につながりにくい人  
a)生活に支障があるほどの精神症状がみられるが未治療もしくは治療中断している  
b)過去1年間に2回以上精神科救急利用歴/入退院がある  
c)迷惑行為などの行動化がある(苦情/近隣トラブルになっている)  
d)精神科長期入院者で住居など退院のための調整が必要  
e.ひきこもりで学校/職場に行けない f).社会的に孤立している  
g.その他の理由でアウトリーチ支援ニーズがある

医療につながっているが、家族間で会話が成立していない、2つのケースでの例を話されました。

Aさんのケース 家族との面談を繰り返し、外来受診時の父の言動が変化したことや、母が病気になったことが大きな契機となり、家族だけで本人を支えることが難しい事を本人にもわかってもらえた。

Bさんのケース 「父の思い描く支援像がありそう」と気づき、父のプランに乗せてもらう作戦をとり、本人に、家族の思いをわかってもらえた。

ケースを通じてみえたこと：「医療に繋がる」は大事な一歩であるが、そこはゴールではない。「診察室だけでは生活の実態はほんの一部しか分からない」ままで済まらず、医師を巻き込み診察室の雰囲気を変える。家族が本人を支えたいという思いは大切にしたいが、家族をケア役割に縛りつけていないか？困ったどうしよう、を本人が“自分ごと”として考えられるようにしたい。それぞれの家族に文化があり、そこには大きな力も秘めている。共に考えられる関係性をはぐくむことを目指したい。

「家族」の観方が変化：以前は、患者さんとその家族としてしか家族が見えなかったが、本事業を通して、本人だけでなく家族自身も支援が必要な状況にあるというのが実態だと気づいた。

まとめ：家族一人ひとりの考えを言葉にして共有する場、それぞれが自分のための目標を意識できる機会を提供することにより、家族の中で起こっている困りごとを皆で考える力をつける。支援者と共に、そして家族だけでも乗り越えられる力を増していけるように、家族全体のエンパワメントとなれば。

このような支援を受けてみたいという方が多く見えました。2つの例で、診察室の雰囲気を変えることが、きっかけになったことが印象に残りました。

(文責 実行委員、広瀬)